

平成 23 年度第 2 回朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成 23 年 8 月 10 日（水）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

## 平成 23 年度第 2 回朝日地域審議会 会議録

○日 時：平成 23 年 8 月 10 日（水） 9 時 30 分から 12 時 00 分まで

○会 場：鶴岡市朝日庁舎 4 階 大会議室

○出席者：敬称略

（委員）帯刀春男、井上時夫、佐藤正、松本壽太、宮崎重美、伊藤文一、佐藤照子、難波玉美、  
佐藤宥男、佐藤芳彌、小野寺一郎、難波一之、菅原孫一、佐藤世津子、難波庄一  
（20 名中 15 名出席）

（市側【庁舎】）支所長、各課課長・主幹、総務課職員

（市側【本所】）地域活性化推進室長、地域活性化推進室職員

### 1. 開 会

2. あいさつ 会長

朝日庁舎支所長

### 3. 協 議

(1) 平成 23 年度協議「定住化対策」資料について 総務課長が説明

意見（宮崎重美）

空きバンクの制度について説明があった。空き家に住むためには増改築等の助成があるが、住民のいない空き家は地域にとって環境を著しく損なうとともに危険なものであり、解体してもらうためにも、助成の検討を行ってみてはどうか。

回答（総務課長）

空き家は増えている状況にある。今冬の豪雪においても全壊、半壊の家屋が出ている。基本的には個人が所有する財産であり、市から所有者に対し危険である、あるいは壊れている等の連絡を行っている。対応して欲しい旨連絡を行っているが、所有者が近くにいない、不明等の課題もあり、すぐに対応してもらえない現状もある。空き家対策については朝日地域のみならず、市内全体で課題となっている。そのため、鶴岡市重要要望として、国・県に対し危険家屋の解体を容易にする財政支援策を要望している。ただ、所有者の意向を聞かずに処理をすることができない状況も御理解いただきたい。全国的にも課題となっている。

意見（伊藤文一）

地元産の杉材が活用されない、また材料としての価格が安価である状態が続いているが、地元業者が在来工法でも屋根の雪下ろしをしなくていい工法を薦めており、地域材を使った住宅への支援対策は行っているか

回答（建設環境課長）

本日の資料に記載されているものでは、市の補助制度と県の融資制度がある。また、市として克雪住宅への支援制度があるが、その事業においては地域材の使用についての特定条件はつけていない状況にある。

回答（産業課長）

農林部門での地域産材の事業も、市の事業ではないが、制度として民間の建築業者で協会を作っている事業がある。この事業は地域産材を使った家づくりを行った方に対し、柱を 50 本提供するという支援制度で、昨年 5 世帯程活用している。また、市では建築課所管で地域産材を使った家屋への助成制度も行っている。潤沢な制度としては不足もあるかと思うが、他にも、県の制度として地域産材を使った支援もあり、こういった制度を活用し取り組んでいきたい。

意見（宮崎重美）

一部話題になったが、この地域は雪がなければ大変住みやすい地域だと思っている。環境をいかに良くしていくか、建物に対しての雪下ろし対策等を行っていかねば地域に定住するのは厳しいと思っている。いかに生活環境を整えていくかが大きな課題である。

回答（総務課長）

朝日地域は豪雪山村として克雪対策は以前から取り組んできた経過があり、特に交通対策として通勤等の確保のため除雪関係、道路の整備等については朝日地域ならではの支援制度を設け、除雪機械購入や克雪対策小規模市道への支援を行ってきた。他、行政として考えられることは行ってきた経過があると考えているが、克雪対策について具体的にこういうところを支援して欲しいということがあったら委員の皆さんからも提案していただきたい。

意見（佐藤照子）

産直朝日グーに見える方からは外の眺めを見て素晴らしい景観だ、こんなところに住めて羨ましいと褒めてくれるが、雪で困っていることは知らない方だと思う。ただ、朝日地域の除雪体制は旧市内よりもどこよりも朝日地域が綺麗で、道路は何も心配なく来ることができると褒めてもらっている。本当に朝日地域は道路除雪は進んでいると思っているが、一番は屋根に積もった雪や家の前の雪を何とか解消できればと言うことだと思う。支所長のあいさつにあったが、「住んでいたい」「住み続けられる」ことに加え、「住んでみたい」地域にしたいと常々思っており、産直施設の立場としては櫛引にある産直あぐりを越えて朝日グーにわざわざ買い物に来てくれる、朝日の魅力作りに取り組んでいるつもりである。グーにいけばおいしいものがある、グーでないと買えないものづくりに挑戦したいと考えている。また、生産者の悩みは雪だけではなく鳥獣被害がある。せっかく作っても猿が取っていく、産直で販売できないという大変な状況もあり、定住化テーマを考えるには一概に言えない部分もあり、問題が多くじっくり考えていかねばと思う。

意見（小野寺一郎）

高齢者の代表として出席しているが、現在の悩みは村全体が高齢化するとともに一人暮らしの世帯が増えていることだ。地域に住んでいてここに住み続けるためには、雪対策が課題だ。住民が 1 人も 2 人でも昔の家は大きいので、屋根の雪下ろしが大変だ。生活保護世帯等生活困窮世帯には雪下ろしの支援があると聞いているが、すべての家に対し、2 回目以降は市が支援を行う方策があれば住みやすくなるのではないかな。

また、保育園も統廃合、学校も再編するという話の中、だんだん子供も少なくなる状況はわかるが、そういうところには嫁も来ない、長く住む続けることができないという逆の考え方もできるのではないかな。そういう子供の声が聞こえなくなる地域は寂しくなるわけだし、定住し続けることは容易ではないのではないかな。

意見（難波一之）

若者の姿が少なくなっているという話があるが、高校を卒業すると大学に進学する方が多くなっている。以前は地域に青年団組織があつて、地域の行事に対しては青年団が高校生と地域住民の間に入っ

て行事をやってきたと思うが、今そのような青年団組織もない。地域から出て行くということは地域に愛着がない、地域のつながりが少ないこともあると思う。支援だけでなく、地域の中でも若者も高齢者もいると思うので、その中でいろいろな行事を進めていったり地域の行事に参加しながら、つながりを深めていくということが必要になってくるのではないか。

また私の家に障害者がいるが、今年小学校を卒業し来年どうしますかと言われていたが、中学校にもそういう支援学級はあるが、やはり1人2人の中だと成長が遅れてくる気がする。今養護学校のほうに行こうと思っているが、交通の便が悪いことが家族の中で話し合われている。障害者だけの問題ではないと思うが、高齢者の方も病気になった場合荘内病院等に行くと思うので、多少の補助は出ているかと思うが病院等に行った際の支援拡充等を検討する必要があるのではと考えている。

意見（帯刀春男）

高齢者が増えていると言うか、子供が少ないから高齢化率が上がる訳だが、高齢者が生きがいをもってこの地域の中に住むための条件を考えると、最低生きがいをもって暮らしていける地域、その中にはさやかな家庭用の野菜を作るとか、自分の趣味のものをやってみるなどあるが、何とんでもハンディになっているのは医療に関しての心配、生活環境、冬の場の心配等色々あるが、容易でない点をもう少し言うと、消火栓がこの地域にはかなりある訳だが、昔若い人たちが出稼ぎに行っていて初期消火のため消火栓をいっぱい付けようという行政の方針だった。それがここに来て、消火栓の具体的な器具は地域で全部対応しなさいと言う方向性が出されていると聞いている。鶴岡市全体が高齢化しているという状況はわかるが、旧朝日村の特性の一つだったように感じている。高齢者世帯がそういうものに対する負担をすることは厳しいものがあり、そうすれば嫌だけれど息子のところに行くかと言う話になる。そういうパターンは今後続く気がしてならない。何とか特性と言うか高齢者でも初期消火できる消火栓、そのための器具は全部住民が負担することなく、今はホースから水が漏れるような器具の設備であり、何とかその状況を行政から理解してもらいながら地域の特性をいう部分で今まで同様継続して整備して欲しいという要望だ。他の地区は全部地域でやっておき右倣えしてくれというのもわかるが、条件の不利地域でそれも含めて削っていく状態は特性をなくする。

意見（井上時夫）

旧朝日村、この時期は非常に住みよい季節だ。収穫の秋を迎えるにあたり、作物は稲の収穫を迎える前にサル、ハクビシン、タヌキなどかたの被害があり、その対策に苦慮している。もっともその被害は雪よりは楽だと個人的には思っている。雪の問題だが、除雪機に補助はあるが対象になる範囲が狭い。新たに屋根から雪を下ろす際に軒先の雪を排雪するが、昨年のように豪雪のときは軒下除雪に対しても補助が出て大変ありがたかった。なお、除雪機があれば下ろした雪も自力で排雪できるという声もあり、今後検討して欲しい。また、高齢者世帯で宅地が大きく市道まで20~30mあるという世帯もあるが、昔はかんじきで踏み固めて歩いたが、自分一人が家に行く訳ではないので朝夕私道の雪を除雪しているが、その作業が大変だ。それを今は機械を持っている人たちがカバーして除雪している。機械を共同で購入すれば使用料も多くなっていいのではという話もあり、検討すべきだと思う。また、大網地域では空き家が0と言われていたが、雪で潰れている建物もあり環境的に良くないと感じる建物もある。10年ほど前と比べて若者も集会等で早く帰ることなく一緒に酒を飲むようになった。これは、残業等が少なくなった等の理由もあるが、結婚するとすぐ実家に入らない、2~3年はしないのアパートに住む例も増えている。そういった人たちが後で実家に戻ってこれればいいが、なかなか全部が全部戻ってこないような気がする。

意見（菅原孫一）

課題は同じになってしまうが、定住すると言うときに一番思うのは、雪対策ではないかと思う。これは一生ついて回る問題で、農業振興とか色々と叫ばれているが朝日地域からも製造業に通勤されている方も多いのではないか。朝日地域は自然に恵まれているし地震や災害も少ないし、いいことはいいことでいっぱいあるが、冬の雪については高齢者も会社勤めの若者もどうすればいいかわからないくらい雪に悩んでいると感じている。特に屋根の雪下ろしはあまり考えず大きく立派な家を作ったが、若者は屋根にあがったことがない、高齢者は上がれなくなった時期にきているのではないか。そのため屋根の構造をどうするか、誰か何かいい方法はないかと考えたり、後は下ろした周りの雪をいかにして機械使うなり消雪したりして排雪するか、朝 30 分も 1 時間も除雪しては会社勤めも大変だと感じているので、簡単にできる方法はないのかと思っている。屋根の雪を下ろすのに 1 回 1 万円助成しようとか、除雪機械の購入に補助しましょうとかは今現に実施されているわけだが、実施されていながらもまだ課題が残っていると言うのは、何かまだ問題があるのではと感じている。地域の活動と言う話もあったが、行政の資金も有効に利用しながら今何かはわからないが新しいシステムがないと住みよい克雪対策は出てこないのではと感じている。

意見（佐藤世津子）

定住化の問題も取りざたされている中で、震災後の節減対策を背景に考えたとき、雪を活用した節電対策も何かできないものかと思っている。冷蔵庫が各家庭に何台もあるが、除雪した雪を活用して各地域に雪室を設置すれば節電対策にもなるのではと感じる。また、屋根の上に雪が溶けるようなシステムをおいたら、それも克雪対策になるのでは。とにかく、ここに来る前に若い人から聞いてきた朝日地域の良いところは人間的にのんびりしている、自然環境がいい、アウトドアでの遊びが自由にできる等の話がある反面、大変だと言われることは雪が多いのが一番の難関だと思う。そのため、雪に対する補助は今まで以上に拡充して欲しい。例えば 80 歳以上の一人暮らし高齢者に対しては除雪の支援を行うなど、2 回目以上の雪下ろしには補助を出すなど、他ではない雪に対する対策に支援があればいいと感じる。交通の便については高速道が整備されたこともあり、山形や酒田、鶴岡に近くなったこともあり、若者も交通に対しては問題視していないようだ。ただ、高齢化が進んでいる現状では医療機関に行くのが大変だと言う声はある。むしろ、朝日地域に企業誘致をしているが、その企業に市内から通勤する人も多いと言うことで、かえって鶴岡に住居を持って朝日に勤めていると聞いている。それだったら、朝日の落合周辺にだけでなく、奥の大鳥、田麦俣に施設、企業を誘致すれば定住して就業できるのではないかと思う。また、大鳥、田麦俣地域は観光とお年寄りのはのんびりした自然環境が好きだと思うので、廃校、廃園となった施設を老人福祉施設等で活用すれば若者も仕事場が増えるのではと私なりに思っている。

意見（難波庄一）

空家バンクの話題もあったが、大泉地区も空き家が多く住みやすい環境ではないのかと感じている。地域の中で公民館活動も行っているが、何をやっても合併後やりづらくなった印象がある。一生懸命やっているところも返金して一律に予算が減っている気がする。条件的に不利と感じる朝日地域も、市内と同様に考えられている状況だ。特に今年の豪雨災害で崩落した箇所があるが、なかなか直らない。仮の道路整備等行ってもらっているし、事情があるのはある程度わかるが、少しでも早い復旧をお願いしたい。

意見（佐藤宥男）

老人世帯のみの雪下ろしについては支援があることに感謝しているが、課税世帯は対象とならない現状であり、対象範囲の拡大をお願いできないか。

また、豪雪対策として除雪機械の補助制度があるが、道路延長等により該当非該当の範囲についての判断基準の拡大を求めたい。

地域に雪室という話があったが、自然エネルギーの活用という点からも賛成だ。

集落内に配布物があっても、郵便ポストに入れてくることなく、各世帯に対し声を掛けて配布する等少しでもコミュニティ意識を高める取り組みを進めるべきだと思う。

意見（難波玉美）

最初に行政へのお礼だが、除雪のための機械購入や鳥獣被害防止策としての電気柵購入に対し支援を頂いていることに感謝する。特に電気柵の効果は高く、サル被害が防止されている。

農業についてだが、後継者のいない世帯からの受託が増えている。

意見（伊藤文一）

朝日地域は山林が90%を越える地域であるが、最近米沢市で中国の方が山林を買収したと言うニュースがあった。売買の目的は水資源だと言う話であり、地域の中で水を販売してはと言う話が出ている。地域材の活用について、住宅用柱在の提供の話があったが、在来工法にやることによって地域の大工さんにも仕事が回る、製材所も活用できるということで地域の活性化になると思うし、地元業者が考えた克雪住宅もあるので、是非地域産材を活用した振興策を考えていきたい。

意見（松本壽太）

以前は家庭も3世代同居も多く雪下ろしの心配をすることなどなかった。特に昔は除雪機械の低い性能や粗末な排雪器具の中で雪下ろしや除雪をして暮らしてきたと言う実態があるわけで、その地域の中しか見えなかったこともあり、安易な方向に流れている気がしており、今はなぜできないのかという思いがある。定住化も解決策に取り組んできたが実らないと言う全国的な傾向がある。産業構造にもいえることだが、元気のある農業構造の中であれば解決策があるのではと感じている。

意見（佐藤正）

定住化対策については行政全般にわたるテーマであり、3回4回の地域審議会でもとまるのか疑問に感じている。例えば、課題として検討する3項目についても1番目は税金や負担金は引き上げがあった、2番目は学校、保育園の統廃合の話が出ている、3番目の雇用の話にしても農業に関して言えば鳥獣被害で大変な状況にある。合併前の朝日村においても不利な部分をカバーする施策に取り組み、朝日地域も人口減少はありながらも住んできた経過があるが、合併後は合併後6年を経過し、事務事業の調整、行政改革大綱等の取り組みの中で朝日地域にこだわり住む理由意味が薄れてきた感がある。自分自身は朝日地域に生産基盤があるうちは住みたいと言う意識はあるが、定住化と言うテーマで協議していてもちぐはぐな印象がある。市内の審議会、委員会等に参加する機会があるが、片方で地域のコミュニティ対策だ、中山間対策だ、過疎対策だ、と検討する傍らで、5年間で何をしてきたかと言えば同じ行政区域だと言うことでサービスを一律にしてきた経過がある。その結果、周辺地域のほうが合併前の鶴岡市に比較して優位だったものが削減され、一律になっている。雪の関係でも若い人たちは子供と一緒に雪の少ないところに転居し、高齢者だけが残ることとなる。動けるうちは雪下ろしも可能だが、できなくなれば子供のもとに行くか施設に行くかしかない実態だ。定住化の取り組みを協議して来年度の予算に反映させたいと言う話だが、その前に元の条件に戻して欲しいと言う思いがある。不利をカバーする条件を施策として取り組んできたがどんどん無くしてきて、定住対策のための検討といわれても虚しくなる気がする。この地域に何のために住むのか、優遇された条件があるからこそ住めるのであって同じ条件であれば住むことに意味はなくなってしまう。本当に行政が定住化対策を考えているのであればそういった部分もトータルに考えてもらわないと前には進めないと感

じている。

意見（帯刀春男）

雪がハンディだと言うことはわかるが、降った雪は水となって庄内平野に流れる訳なので、これを旧市内の人たちも含めてどれだけわかっているのかという気がする。これこそ朝日地域の特性としてみていきたい。発電の村としてわかってもらっているが、雪が降ると困る住民と違って電力事業者は雪が降ることを喜んでいるわけなので、傾斜配分ではないが、雪が降ると言うハンディキャップを理解して欲しいと思っている。

意見（松本壽太）

国、県、企業のダムがあつて、これに支えられ洪水調整等の機能を果たしてきた。洪水もないという話が合ったが、これらの施設に守られているという感覚すらなくなっている。下流域に安全を確保していると言うことをアピールして欲しい。

意見（佐藤芳彌）

合併して6年、合併した当時の地域の特性を生かしながら新しい鶴岡市を発展させるという流れの中で、平均的にやらなければならない、また厳しい市の財政事情もわかるが、水は高いところから流れる、この水を朝日地域が守っているということを理解してもらえるような取り組みを進めていくべきである。合わせて、鶴岡市職員一人一人がそういった理解に立って行政に取り組んで欲しいという願いもあると思う。この地域審議会もそれぞれの地域の特性を維持しながら生かしながら、行政の中に意見を注入していく役割を担っている。広い意味での雪の対応、活用を図るべきだ。

また、行政が対応できること、地域の中で対応できること、自分でやらなければならないことを、どこでどう線引きしてとりくんでいくかが、大事な課題だと思う。住民と行政が一体なっていく姿勢が必要だと思う。

#### 4. その他

##### (1) その他

次回は10月を目途に開催したい

#### 5. 閉 会